



MITA CAMPUS HISTORY and HIGHLIGHTS

三田キャンパス 歴史芸術ガイド

興味別おすすめ 見どころコース



1. 近代彫刻コース

F 福澤諭吉胸像 柴田佳石



H-1 無 イサム・ノグチ

H-2 学生 イサム・ノグチ

H-3 若い人 イサム・ノグチ



K 青年 菊池一雄

J 星への信号 飯田善國



A 知識の花弁 飯田善國



R 小山内薫胸像 朝倉文夫



T 平和来 朝倉文夫



2. 建築コース

15 三田演説館 ★重要文化財

竣工 1875年



3 大学院校舎

設計 槇文彦

竣工 1985年



1 第1校舎

設計 曾禰中條建築事務所

竣工 1937年



11 図書館旧館 ★重要文化財

設計 曾禰中條建築事務所

竣工 1912年



12 塾監局

設計 曾禰中條建築事務所

竣工 1926年



14 図書館

設計 槇文彦

竣工 1981年



※ **15** 三田演説館、**12** 塾監局、**14** 図書館 は建物内への立ち入りはできません。外観をお楽しみください。

キャンパス・カルチャーウォーク360°

360°画像でキャンパスの文化財、建築物の内部をご覧いただくことができます。



撮影：村松 桂(株式会社カロワークス)／A.知識の花弁, C.わだつみのこえ, H-1.無, H-2.学生, H-3.若い人, K.青年, L.ユニコン像 新 良太／G.三田演説館, H.旧ノグチ・ルーム(内観), M.図書館旧館, N.手古奈, T.平和来, 3.大学院校舎



中庭・演説館 エリア

A 知識の花弁 飯田善國 [1981年]

横文彦による図書館のために、建築の構造を踏まえて大輪の花として構想・制作されました。知識を未来に花開かせる図書館という場所自体にも適した彫刻といえます。



B やがてすべては一つの円のなかに No.1

宇佐美圭司 [1982年]

横文彦の依頼を受け、図書館入口に設置するために制作された作品。横長の画面に、宇佐美作品の重要な絵画構成要素である記号化された4つの人型が反復、展開しています。

C わだつみのこえ 本郷新 [1950年]

戦没学生慰霊像。戦後具象彫刻の泰斗である本郷が求めた、若者の力がよく表現されています。また緊張した面持ちは、犠牲となった学徒としての側面も伝えています。(一般見学不可)



D おおいちょう 大銀杏

慶應義塾が移転する前の旧島原藩中屋敷時代から生えていたと考えられるキャンパスのシンボルの1つ。他にも構内には銀杏の巨木が多数。



E 独立自尊の時計塔 谷口吉郎 [1975年]

戦前、この近くに校舎があった慶應義塾商工学校(1949年廃校、中等部の前身)の歴史を伝えるため、開校70年を記念し建立。隣には商工学校創立100年の記念樹もあります。

F 福澤諭吉胸像 柴田佳石 [1953年]

福澤は自分が権威化するのを嫌っていたため、没後も長く銅像は造られませんでした。遺族らの意見を参考にできる最後のチャンスとして、戦後に初めて制作、設置されました。最もよく生前の面影を伝えているとされる銅像です。

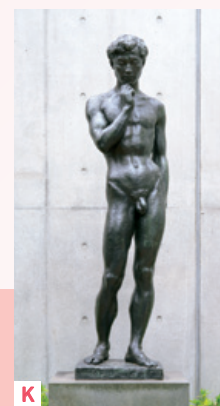
G 三田演説館 (重要文化財) [1875年]

1875年開館の日本初の演説会堂。speechを「演説」、debateを「討論」と訳した福澤はここで塾生たちと実演して日本に広め、それが自由民権運動へと繋がっていきました。自分の考えを自分の言葉で述べようという、民主主義の基本を日本に生み出した史跡です。

G-1 福澤諭吉肖像画

松村菊麿 [1937年]

三田演説館内には、演説中の福澤の全身像が掲げられています。(一般見学不可)



H 旧ノグチ・ルーム

[1951年竣工、2005年一部形を変えて移設]

H-1 無 イサム・ノグチ [1950-51年]

H-2 学生 イサム・ノグチ [1951年]

H-3 若い人 イサム・ノグチ [1950年]

三田キャンパスの戦災復興を担った谷口吉郎と、彫刻家のイサム・ノグチの協働によって生まれた談話室で、かつては「萬來舎」とも呼ばれ、第二研究室内にありました。直線を主体とするモダニズム建築の内部にあって、曲線を取り入れることでコントラストを際立たせています。

ノグチは室内と自らがデザインした周囲の庭園や、《無》《学生》《若い人》といった自身の彫刻を組み合わせ、広がりを持った空間性を有する一種の総合芸術としてノグチ・ルームを構想しました。2005年の移設を経て「旧ノグチ・ルーム」となった現在でも、この遺構は高い文化的価値を有しています。また各彫刻においてノグチはそれぞれ異なる造形言語を用いており、その多様性も見どころになっています。

I デモクラシー 猪熊弦一郎 [1949年]

谷口吉郎設計学生ホール(1949年竣工)の食堂東西両壁面に描かれた壁画。学生ホールは取り壊されましたが、本作は西校舎内の食堂に移設され、現在も学生を見守っています。

J 星への信号 飯田善國 [1984年]

風で動くキネティック・アート作品。刻々と位置を変えるステンレスの棒は、飯田にとって無限と地上との媒介者であったということから、これはそのためのアンテナにも見えます。

K 青年 菊池一雄 [1948年]

従軍中に喉を潰した声楽家志望者がモデルで、菊池は戦争に人生を狂わされた青年が持つ影にひかれたとといいます。

L ユニコン像

右:ユニコン1(オリジナル) [1924年頃]

左:ユニコン2(再制作) 三浦大和 [1978年]

戦争で失われた大講堂のバルコニーにあった一対の怪物像。現在は中等部玄関前にあり、戦前からの慶應義塾のマスコットの存在です。(見学は中等部正門外からのみ)

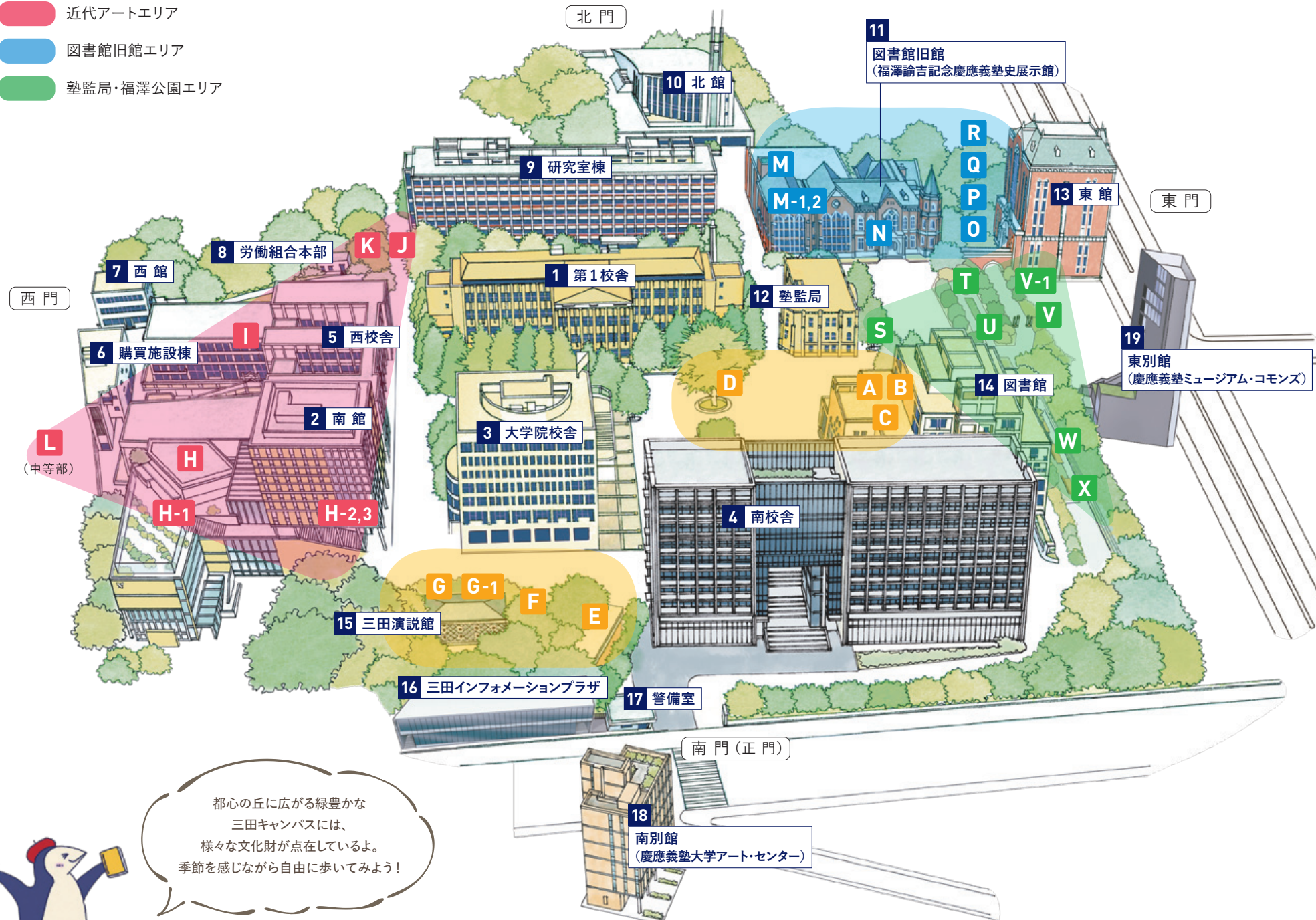


近代アートエリア

CAMPUS MAP

キャンパスマップ

- 中庭・演説館エリア
- 近代アートエリア
- 図書館旧館エリア
- 塾監局・福澤公園エリア



都心の丘に広がる緑豊かな三田キャンパスには、様々な文化財が点在しているよ。季節を感じながら自由に歩いてみよう!



大学ミュージアム

三田キャンパス内には慶應義塾の歴史を学び、文化財コレクションを楽しむことができる施設が3か所あります。ぜひ足をお運びください。

福澤諭吉記念慶應義塾史展示館 11

福澤諭吉の生涯と慶應義塾の歴史を、数多くの貴重な「実物」と当時の「言葉」でたどる展示館。重要文化財の図書館旧館2階にある展示室には常設展示室のほか、企画展示室もあり、年に数回、特別展も開催しています。



慶應義塾大学アート・センター 18

現代芸術および慶應義塾所管の文化財に関するアーカイブの構築や、アート・スペースの運営を行う大学附属の研究センターで、博物館相当施設の指定を受けています。アート・スペースでは、年間を通じて多岐に渡る展示企画を実施しています。



慶應義塾ミュージアム・commons 19

慶應義塾が保有する文化財コレクションと教育・研究活動をつなぎ、交流を生み出す「ハブ」となるミュージアム。先進的なデジタル環境を備え、デジタル・アナログ融合型の展示プログラムやコレクション・プログラムなど、多様な活動を展開しています。





M

M 図書館旧館 (重要文化財) [1912年]

創立50年を記念して建設された、華やかな外観を特徴とするネオ・ゴシック様式の図書館。地震や戦災をくぐりぬげ、現在も図書館、展示館等として利用されています。

M-1 ステンドグラス

和田英作(原画)、小川三知(制作) 大竹龍蔵(復元)
[1915年完成、1974年復元]

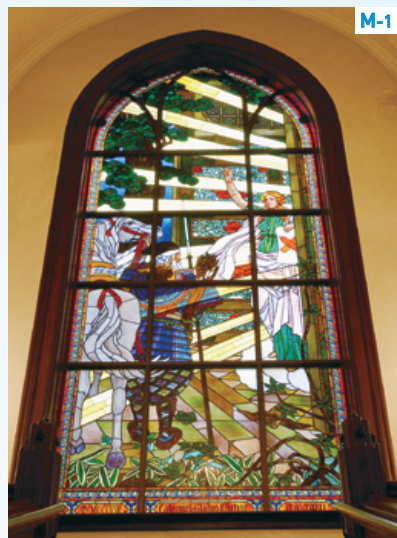
封建社会を象徴する鎧姿の武将が、慶應のペンマークを手にした文明の女神を迎える図柄で、「Calamvs Gladio Fortior = ペンは剣よりも強し」とラテン語で記されています。戦災で焼失後、復元されました。

M-2 大時計 沼田一雅

フランスのセーヴルで陶磁彫刻を研究した作者による大時計。白・藍・褐色の彩釉陶器を貼った文字盤の数字の部分には、ラテン語で「TEMPUS FUGIT = 時は過ぎゆく(光陰矢のごとし)」と刻まれ、零時の部分には砂時計がデザインされています。

N 手古奈 北村四海 [1909年頃]

日本では珍しい大理石彫刻により、万葉集に謳われた女性が繊細に表現されています。戦争で損傷しましたが、それ自体を歴史化するため、痕跡を残して修復されました。



M-1



M-2



N

O 吉野秀雄歌碑 [1972年]

P 久保田万太郎句碑 古賀宏一 [1973年]

Q 佐藤春夫詩碑 谷口吉郎 [1974年]

R 小山内薫胸像 朝倉文夫 [1958年 移設1964年]

慶應義塾ゆかりの文学者たちに関する記念碑群がある図書館旧館裏を「文学の丘」と呼んでいます。一番奥の胸像は「新劇の父」と呼ばれる小山内薫。他の3つの碑には次のように刻まれています。

「図書館の前に沈丁咲くころは恋も試験も苦しかりにき」(吉野秀雄歌碑)

「小山内先生をおもふ、しぐるゝや大講堂の赤れんが」(久保田万太郎句碑)

「さまよひ来れば秋草の ひとつ残りに咲きにけり
おもかげ見えてなつかしく 手折ればくるし花散りぬ」
(佐藤春夫詩碑)



O



P



R



Q

S VIRIBUS UNITIS [1909年]

1909年の普通部卒業生が寄贈した石碑。「VIRIBUS UNITIS」は、ラテン語で「力をあわせて」という意味です。



S

T へいわきたる 平和来 朝倉文夫 [1952年]

戦没した学徒や卒業生を追悼するため、卒業生有志の寄贈により1957年に設置されました。瑞々しい肉体に、若き戦没者への慰霊と新しい時代への希望が込められています。台座には小泉信三塾長の碑文が刻まれています。



U

U 還らざる学友の碑 [1998年]

志半ばにして戦争に没した学友を偲び、永く記憶にとどめるための記念碑として、1998年に設置。2014年に慶應義塾関係戦没者名簿が納められました。



T



V

V 幻の門 [1913年 移設2000年]

かつての慶應義塾正門。権威や虚飾を嫌う学風を反映した簡素な造り。カレッジ・ジングにちなんで「幻の門」と呼ばれ親しまれています。2000年に現在地に移築。

V-1 うまどめいし 馬留石

幻の門の手前の坂には、旧島原藩邸の時代に馬をつないだといわれる馬留石も移設されています。



V-1

W 福澤諭吉終焉之地記念碑 [1971年]

この付近には福澤の邸宅がありましたが、戦争により失われました。1901年2月3日、福澤は碑の付近にあった部屋で亡くなりました。



W



X

X 旧制四学校記念碑 [2001年]

戦後閉校となった旧制四学校(商業学校・商工学校・工業学校・高等部)を記念して、2001年に建てられた碑。

図書館旧館 エリア